



岩手県県北家畜保健衛生所
岩手県北家畜衛生協議会

目 次

| | |
|------------------------------------|---|
| 呼吸器病が流行しています！！ ～ 母牛にワクチンを接種しましょう ～ | 1 |
| 生産現場における薬剤耐性菌対策と飼料添加物コリスチンについて | 3 |
| 牛海綿状脳症（BSE）検査に御協力下さい | 4 |
| ～目指せ！未来の獣医師～ 高校生インターンシップ報告 | 4 |

呼吸器病が流行しています！！ ～ 母牛にワクチンを接種しましょう ～



平成29年4月から6月にかけて、県内でウイルス性の呼吸器病が多く報告されました。

概ね1～3ヶ月齢までの子牛は、病原体から自らを守る「免疫機能」が未熟なため、概ね6ヶ月齢までは、母牛の初乳から得られる「移行抗体」という免疫物質で身を守ることが重要です。その「移行抗体」を十分に獲得するためには、母牛の免疫を高めておくことが必要です。子牛のワクチン接種のみでは防ぐことはできません。

出荷前に感染すれば、販売価格にも大きなダメージを与えます。

下図を参考に、母牛には、ワクチンを毎年1回接種しましょう。

自分の牛は、自分で守り、販売子牛の価値を高めましょう。

ワクチン接種例

(母牛)



人工授精



不活化ワクチン2回
(翌年以降は1回)



分娩



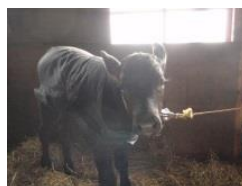
(子牛) 出生



3～6ヶ月齢
ワクチン
生：1回
または
不活化：2回



出荷・保留



放牧地や周年預託施設を利用する場合は、ワクチン接種を済ませてから預託しましょう！

ウイルス性呼吸器病の特徴

| | RSウイルス病 | 牛コロナウイルス病 |
|--|--|---|
| 特徴 1 発生時期 2 好発症月齢 3 発病要因 | 寒冷期が多い 関係なし 導入時、地域の発生 | 寒冷期が主、子牛では年間 新生子牛・搾乳牛 急激な気温変化 |
| 症状 1 発熱 2 鼻汁 3 呼吸器 4 下痢 5 特徴 | 5-6日続く 水溶性～粘性 多量のおぶく状のよだれ、 湿った感じの咳、粘り気 のある痰 通常認めない 目の充血や涙 | あり 漏出 発咳 淡褐色～暗緑色の水様下痢、 通常、短期間（2～3日）で 回復 眼球陥没・四肢温度低下 |
| 発生状況 1 件数※（管内） 2 品種 3 月齢 （※4-7月） | 3件（県北1件） 肉用2 乳用1 肉用2-6ヶ月 乳用2-4歳 | 3件（県北2件） 乳用 3 4-9ヶ月、2-5歳 |
| 特徴的な臨床症状 の例 |  <p>多量の鼻汁</p> |  <p>水様性下痢</p> |

岩手県北家畜衛生協議会では、ワクチン接種を推進しています。

詳しくは、かかりつけの獣医さんか、家畜保健衛生所へ
お問い合わせ下さい。

牛5種混合（生・不活化） 1,910～2,080円/頭

牛6種混合（生・不活化） 2,220～2,320円/頭



生産現場における薬剤耐性菌対策と 飼料添加物コリスチンについて

①薬剤耐性菌とは

その名のとおり、薬剤（抗菌性物質）に抵抗性を持ち、薬効が効かない細菌のことをいいます。その原因として、抗菌性物質の使いすぎなどが原因とされています。薬剤耐性菌は、人や動物の治療を困難にするため、国際的な重要課題であることから、わが国は、平成28年4月に今後5年間に取り組むべき対策をまとめた行動計画（アクションプラン）を決定しました。



②家畜への抗菌性物質の使用と人への影響

『動物用医薬品』や、家畜の増体や飼料効率の向上のための『飼料添加物』に抗菌性物質が使用されていますが、適正に使用されないと、薬剤耐性菌を増やすこととなります。

そしてその薬剤耐性菌が食品等を介して人に感染した場合、治療を困難にすることが懸念されます。

③薬剤耐性菌を低減するために（リスク管理措置）

○抗菌性物質の慎重使用の推進

- ・動物用医薬品の使用に当たっては、獣医師の診察を受け、診察に基づく指示を守りましょう。
- ・人の医療上極めて重要な抗菌性物質（フルオロキノロン系合成抗菌剤や第三世代セファロスポリン）は、最初に使用した抗菌性物質が無効の場合のみ限定的に使用しましょう。

○飼料添加物コリスチンについて

- ・飼料添加物コリスチンは、広く豚・鶏に対し使用されてきましたが、平成29年1月に食品安全委員会により人の健康に悪影響を及ぼすおそれがあると評価されました。

そのため、国はリスク管理措置に従い、平成29年に指定取消の進め、平成30年度にコリスチンの飼料添加物としての指定は禁止する予定です。



国産畜産物に対する消費者からの信頼に応えるため、また人・家畜に対する抗菌性物質の有効性を確保するため、適正な薬剤の使用について、皆様の御理解、御協力をよろしくお願いいたします。



牛海綿状脳症(BSE)検査に御協力下さい

48ヶ月齢以上の牛が死亡した場合、BSE検査対象となります。
適正な検査実施のため、以下について御協力をお願いします。

①死亡牛届出の提出

死亡牛は、速やかに獣医師の検案を受けましょう。獣医師が検案しない場合は、所有者が家畜保健衛生所に御連絡ください。

②死亡牛の保冷库への早期搬入

高温となる夏期は、死亡牛の腐敗の進行が早くなります。
検査材料の融解等により、検査が不能となる場合があります。



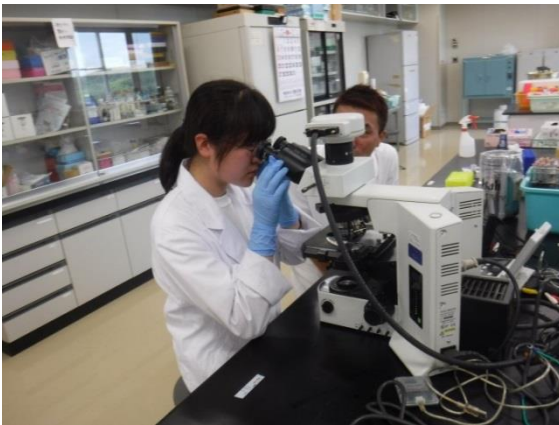
～目指せ！未来の獣医師～ 高校生インターンシップ報告

8月上旬、将来、獣医師を目指している管内の高校2年生Kさんが、当所でインターンシップ（職場体験）を行いました。2日間、職員と一緒に、牛や鶏の臨床検査や血液採材、検査室での生化学・細菌検査を体験しました。

将来は小動物臨床を目指しているようでしたが、家畜保健衛生所の仕事を体験したことで、獣医師の社会的な役割が広いことを理解したようです。また、獣医師になるための道のりについて、先輩からアドバイスを受け、いっそう獣医師になる意欲を高めたようです。

現在、産業動物にかかわる獣医師の不足が問題となっていますが、地域から1人でも多くの産業動物や公務員獣医師が生まれるよう、学生に対して、興味をもっていただけるよう積極的にアプローチしていきたいと思えます。

Kさん、がんばって是非我々の仲間になりましょう！



《発行元・問い合わせ先》

岩手県北家畜保健衛生所

電話：0195(49)3006

岩手県北家畜衛生協議会

FAX：0195(49)3008

電話：0195(49)3040